



かもみーる通信



57号 2015年3月

トピックス

- * ジェンダー関連授業
- * カモミール月曆
- * ソロプチミスト
- * 学生アシスタント
- * 退任室員からの言葉

ジェンダー関連授業ご紹介

岐阜大学の平成27年度ジェンダー関連授業の中から、今回は男女共同参画推進室がコーディネートする授業をご案内いたします。

◆ 労働とジェンダー

全学共通教育科目 前学期 火曜日3限

◆ ワーク・ライフ・バランス (男女共同参画論)

全学共通教育科目 後学期 水曜日1限



労働とジェンダー

授業概要

本講義は、「労働」を「ジェンダー」にかかわる側面から考えます。社会にはあらゆる種類の「労働」が存在していますが、その担い手はどのようにして決められているのでしょうか。この課題を考えるには、労働領域のみならず教育領域や再生産領域でのジェンダーに基づいた活動についても考慮しなければなりません。本講義では、教育、就業、家族といったキーワードをもとに、現代社会のなかで労働とジェンダーが如何に結びついているのか、またその背景にはどのような要因があるのかについて適切に理解できるようになることを目的としています。

到達目標

1. 「労働」を教育領域、労働領域、再生産領域でのジェンダーに基づく活動と併せて統合的に理解する。
2. 「労働」と「ジェンダー」の関係性を具体的な根拠に基づき説明できる。

ワーク・ライフ・バランス (男女共同参画論)

授業概要

本講義は、「男女共同参画社会」という言葉を理解し、その理解にもとづき現在の日本社会を認識する力を習得することを目的としています。男女共同参画社会の実現には、ワーク・ライフ・バランスのとれた生活が必要です。そのためには、国、企業、個人のそれぞれがどのような役割を果たすことができるかを学ばなければなりません。講義では、就業、結婚、家族といった身近な話題を用いながら、このテーマを論じていきます。



到達目標

1. 男女共同参画社会の背景およびそれに関連する社会制度について理解する。
2. 現在の日本社会の現状を男女共同参画の視点から論じることができる。



カモミール月暦（室長からのメッセージ）

副学長（多様性人材活力推進担当） 林 正子

5名の室員が任期終了

この3月末日をもって、男女共同参画推進室員の過半数である5名の室員が任期終了となります。本号4頁に、それぞれの室員の退任のご挨拶を掲載しました。どうぞご覧ください。

岐阜大学男女共同参画推進室は、5年前の2010年4月に設置されました。設置と同時に、まさに時宜を得て、文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」に採択されました。その「多様性活力発揮に向けての女性研究者支援」（2010～2012年度）の取り組みを中核として、漸次、男性教員、男女を問わず事務系職員、全構成員へと活動の輪を広げ、男女共同参画推進の活動を積極的に展開してきました。

取り組みを担う室員については、順次増強し、現在では、5学部と保健管理センターから各1名、人材開発部長、特任教員、室長と合わせ9人体制で任務にあたっています。事務局としては、人材開発部職員育成課（当初、総務部人事労務課）のメンバー5名が、男女共同参画に係る推進業務を、しっかりと遂行・補佐してくださっています。

この度、男女共同参画推進室立ち上げ時からの部局選出室員であった和佐田裕昭先生（地域科学部）、清島真理子先生（医学系研究科）、田中逸夫先生（応用生物科学部）が任期満了により退任されます。また、殿崎雅弘 人材開発部長は静岡大学への転任、松井真一 特任助教は愛知学院大学への着任が、それぞれ決まりました。

松井先生には、コンシェルジュとして取り組み全般にお骨折りいただき、和佐田先生にはインターネットによる在宅研究支援システム、清島先生には研究補助員配置制度、田中先生にはサイエンス夢追い人プロジェクト、殿崎部長には制度の構築について、とくにご尽力いただきました。

「皆さん、長期間の任務、本当にどうもお疲れさまでした。多大のご貢献に対し、心よりお礼申し上げます。岐阜大学男女共同参画推進室の頼もしいサポーターとして、今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。」



国立大学における男女共同参画推進の実施に関する追跡調査

一般社団法人 国立大学協会 教育・研究委員会 男女共同参画小委員会による「国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第11回追跡調査について」が発表されました。

http://www.janu.jp/active/txt6-2/201502houkoku_gaiyou.pdf（概要版）

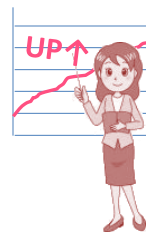
http://www.janu.jp/active/txt6-2/201502houkoku_01.pdf

国立大学協会では、2011年2月、「国立大学における男女共同参画推進について——アクションプラン——」を策定し、「国立大学の女性教員比率を2015年までに17%以上（各大学において1年ごとに1%以上）に引き上げる」という達成目標を定めています。

「追跡調査」によると、2014年5月1日現在の国立大学女性教員比率は14.7%。86大学のうち29大学が、17%以上となっています。

前年度より女性教員比率が1%以上増加した大学は24大学で、総合研究大学院大学4.7%増、鹿屋体育大学2.5%増、岡山大学2.1%増、鳴門教育大学2.0%増、長崎大学1.9%増 などとなっています。

また、前年度より女性教員数が10名以上増加した大学は17大学で、岡山大学64名増、名古屋大学42名増、東京大学40名増、長崎大学33名増、九州大学31名増をはじめとして、17大学における眩目すべき達成状況が報告されています。



岐阜大学の女性教員比率は、医学部看護学科の高比率（82.9%）のお蔭で、2014年5月1日現在、全学で15.9%です。女性教員限定公募を実施している応用生物科学部（7.9%）はじめ、各部局において、それぞれの現状と特性を生かした方策による女性教員増強が進められています。多様な人材が集い、活力あふれる大学となるために、今後の女性教員採用（比率向上）に向けて、引き続き、構成員の皆さんのご理解と全学的な取り組みを期待してやみません。現状認識の共有と今後の実践活動について、大勢の方々のご協力をお願いする次第です。

ソロプチミスト日本財団 各賞募集のお知らせ

公益社団法人ソロプチミスト日本財団 平成27年度 支援・顕彰事業

応募には国際ソロプチミスト岐阜の推薦が必要です

【支援事業】

女性研究者の皆様へ

ソロプチミスト日本財団女性研究者賞

【趣旨】

本賞は、教育、科学技術、環境、IT技術、介護福祉、社会福祉、伝統技術、伝統文化、文学、経済学、健康、平和などさまざまな分野で将来性ある研究をしている有能な女性を支援し、さらなる女性の躍進への足掛かりとなる機会を与えることを目的とし、研究費を支援します。

【応募資格】

日本国内で上記の趣旨にかなった研究をしている日本女性

【支援金】500万円

【顕彰事業】

ボランティア活動をしている皆様へ

社会ボランティア賞

【趣旨】

本賞は、地域社会ニーズに適合した地域密着型のボランティア活動を継続的におこない、誠実に責任を果たしている人を称えます。

【応募資格】

上記趣旨にかなっている個人または団体

【副賞】20万円

学生ボランティア賞

【趣旨】

本賞は、学生ならではの視点でボランティア活動を継続的におこない、誠実に責任を果たしている学生を称えます。

【応募資格】

上記の趣旨にかなっている個人または団体かつ、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学、高等専門学校、専修学校あるいはそれと同等の教育機関に在籍している個人または団体

【副賞】15万円

ご応募の場合は、
3月27日（金）までに
男女共同参画推進室
sankaku@gifu-u.ac.jp 宛
お名前、所属、お電話番号、応募希望の賞を
ご連絡ください。
応募希望者多数の場合は
選考となります。

学生アシスタントによる進学相談

開設日時：月・火・水・木曜日 13:00~16:00

場所：カモミール・カフェ（大学会館2F）

大学生生活での疑問、研究生生活の悩み、進学や就職といった将来の不安…。誰かに相談したいけど、どうすればいいの？ 他の人はどういう風に考えているのだろうか？ お悩みの時は、学生アシスタントによる学生進学相談窓口をご利用ください。

学生進学相談窓口は、**学生（相談者）が学生（相談員）**に進学等の悩みを相談できる場です。似たようなことを経験してきたからできる共感、同じ学生としての状況…なにか参考になることがあるかもしれませんよ。

気軽にお話ししてみることから始めてみませんか？

教職員の皆様、身近な学生さんにこの制度を、ぜひご紹介ください。

まだ大学院に行くか決めてないけど…

何でも聞いてね





退任室員からの言葉

平成27年3月末で退任する室員の皆様からメッセージをいただきました。

地域科学部 和佐田 裕昭 教授

大学での男女共同参画推進は、表向きではない本当の要望を踏まえる必要があるとの立場で、推進室の立ち上げ時から室員として活動してきました。約4年半の期間でしたが、男女共同参画推進だけではなく、将来にまで及ぶ教育研究の基盤となるものを物理的な意味で作ることと、本学でのそれに対する一定の影響を与えることはできたと思います。ご協力とご援助を頂きました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。これからも一般教員の立場から色々と協力してゆきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

医学系研究科 清島 真理子 教授

「推進室での貴重な体験に感謝！」

2010年設立時から5年間室員を務めさせていただき心より感謝しております。男女共同参画宣言および行動計画の検討、文部科学省「女性研究者支援モデル事業」、その後の大学自体による事業継続と、林 正子室長のご指導のもと、推進室は着実に充実、発展してきたと思います。研究補助員配置制度、ロールモデル集、なでしこ教養セミナーなど種々の事業に関わることができ、私にとって貴重な体験となりました。今後は、新室員の皆様のご活躍を願いつつ、OBの一人として応援させていただきたいと思っております。

応用生物科学部 田中 逸夫 教授

4年半にわたり委員を務めて参りました。私は主に女子大学院生による出前講義やロールモデルに関する任務を担当してきましたが、本推進室での活動を通じて得られた最大の成果は私自身が男女共同参画の意義と必要性を理解できたことかと思っております。今後本推進室の看板として多様性人材活用推進が含まれます。日本語ができない外国人や車いすが必要な障がい者の活用推進には、女性職員への支援と同様に、外国人向け日本語支援者や障がい者の介助者などが必要となるでしょう。岐阜大学の多様性人材活力推進が大いに進展することを願っています。

人材開発部 殿崎雅弘 部長

このたび、平成27年4月1日付けをもちまして、静岡大学総務部長に異動することになりました。岐阜大学着任以来2年3月という短い期間でしたが、男女共同参画室の室員として、また事務を総括する部長として、岐阜大学の男女共同参画事業に関わったことをこの場をお借りして感謝いたします。新任地の静岡大学におきましても、男女共同参画推進室のメンバーとして引き続き男女共同参画の推進事業に関わっていきます。岐阜大学で培った経験を基に微力ではございますが男女共同参画社会の発展に寄与できればと思っております。どうもありがとうございました。

男女共同参画推進室 松井 真一 特任助教



4年間にわたり男女共同参画推進室特任助教を務めさせていただきました。今から振り返れば当初は初めて経験する業務に戸惑うばかりの毎日でした。とくに制約がある中での支援制度の構築と運用は常に頭を悩ませる問題でしたが、支援を受けられた方の「支援があって助かった」という声や明るい笑顔にいつも元気づけられていたと思っております。この4年間に岐阜大学の職場環境はある部分では大きく整備されたと思っております。来年度から始まるダイバーシティ環境実現に向けた取り組みによって、今後ますます充実した就業環境・学習環境が整備されていくことをお祈りいたします。

岐阜大学男女共同参画推進室（人材開発部職員育成課男女共同参画係） URL：http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/

〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 Tel：058-293-3378 Fax：058-293-3396 E-mail：sankaku@gifu-u.ac.jp

*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。

